

## グローバル化とホームレスの国際比較研究 (3) マニラのホームレスの析出過程とストリート生活

特定非営利活動法人 社会理論・動態研究所 吉田舞

### 1. 目的

本報告では、フィリピン・マニラ（首都圏）を事例に、ホームレスの析出過程と生活について明らかにする。近年、マニラは、東南アジア経済圏の一角をなすグローバル都市のひとつとして、労働市場と空間構造が劇的に変容している。そのなかで、新たなホームレスの形成と都市空間からの排除が進んでいる。従来、フィリピンでは、マニラの人口の2割を占めるスクオッターの問題に焦点が置かれてきた。政府の貧困対策で、ホームレスはスクオッター問題の延長とされ、固有の問題として取り上げられることはなかった。しかし、都市開発が進むなか、ホームレス状況にある人びとは増加し、可視化している。スクオッターの強制撤去が加速化し、路上に押し出される家族連れが増えている。また、雇用が不安定化し、都市雑業が膨張している。このなかで、マニラ生まれのホームレスも急増している。このような流れのなか、本報告では、マニラのホームレスの労働と居住に焦点を当て、都市の労働市場の変容と空間構造の変容がその最底辺に与えた影響を分析する。

### 2. 方法

本研究では、マニラでホームレス状況にある人々の析出過程と労働・居住実態を明らかにするため、2012年3月より現地調査を行ってきた。具体的には、マニラ首都圏5か所（墓地、教会、強制撤去の再定住地、観光街、行政機関施設の周辺）を対象に、路上で生活をしている20代～60代の男女25名にインタビュー調査を行った。調査言語は、タガログ語と英語を基本とし、マニラにきた時期や路上生活のきっかけ、路上生活をする前後の仕事、家族、住居環境などについてインタビューを行った。

### 3. 結果

本研究では、マニラのホームレス概念として、2つの固有性が明らかになった。1つ目は、ストリート・ホームレスとスクオッター・ホームレスが、ボーダーレスであること。2つ目は、路上で働く人々には住居をもつ人と持たない人がおり、その区別が容易ではないことである。その上でマニラの特徴として、以下の点が明らかになった。①エスニシティでは、先住民のホームレスが増えている。②ファミリー・ホームレスが多い。③女性と子どものホームレスが多い。④スクオッターを撤去されて路上に出た人が多い。そして、⑤シェルター・ホームレスがごく少数である。また、仕事については、従来からの物乞い、物売り、再生資源の回収などに加え、ジプニーなどの客の呼び込み、駐車場のアシスタントなど、新しい職種も増えている。これらの特徴はどれも、発展途上国の都市マニラという経済的・社会的・行政的なコンテクストのなかでのみ解釈できるものである。

### 4. 結論

以上の通り、マニラでは、サービス産業の膨張、都市雑業の職種の増加など、貧しい人びとを路上に呼び込むプル要因が強まっている。また、他方では労働のインフォーマル化が進み、就労や収入が不安定な労働者が増えている。つまり、貧しい人びとを路上へ押し出すプッシュ要因が強まっている。さらに、ホームレス増加の背景には、他の産業都市同様、地価の高騰、交通渋滞対策としてのインフラ整備、街路の美化政策の推進など、余剰空間の活用促進が直接関わっていることがわかった。今後は、本調査で明らかになったマニラのホームレスの特徴を、他の産業都市（マイアミ、大阪、東京）のホームレスと合わせ、一つの枠組みのもとで国際比較に位置づける必要がある。なお、本報告はJSPS 科研費（24330145）の研究結果の一部である。